



Photostud

## THE TENNO SHO (AUTUMN)

## 第172回 天皇賞(秋) (GI)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着  
本 賞 300,000,000円 120,000,000円 75,000,000円 45,000,000円 30,000,000円  
付加賞 2,982,000円 852,000円 426,000円



レース映像は  
こちらでご覧  
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 3歳56<sup>kg</sup>、4歳以上58<sup>kg</sup>、牝馬2<sup>kg</sup>減

2025.11.2 東京 曇・良 芝2000<sup>m</sup> (国産) (指定)

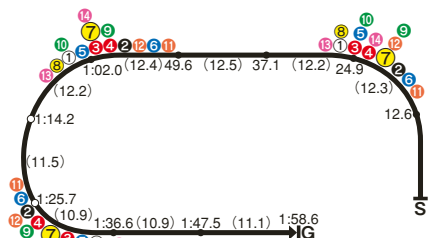
着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600 <sup>m</sup> )	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	マスカレードボール	牡 3	56	C.ルメール	1:58.6	9-6-8	32.3	470(+4)	2.7①	手塚貴久(美浦)	121
2	⑧	ミュージアムマイル	牡 3	56	C.デムーロ	3/4	9-9-9	32.3	500(±0)	7.4③	高柳大輔(栗東)	119
3	③	ジャスティンパレス	牡 6	58	団野大成	クビ	4-6-6	32.6	470(±0)	20.4④	杉山晴紀(栗東)	118
4	⑪	シランケド	牝 5	56	横山武史	クビ	14-14-14	31.7	516(+2)	10.7⑧	牧浦充徳(栗東)	114
5	②	アーバンシック	牡 4	58	A.ブーサン	クビ	12-11-11	32.2	514(+2)	28.2⑩	武井 亮(美浦)	117
6	⑨	メイショウタリル	牡 4	58	武 豊	ハナ	1-1-1	33.1	508(+4)	8.6⑤	石橋 守(栗東)	117
7	⑩	セイウンハーデス	牡 6	58	菅原明良	3/4	9-12-11	32.4	472(-10)	27.7⑨	橋口慎介(栗東)	116
8	⑤	タスティエーラ	牡 5	58	D.レーン	アタマ	4-5-5	33.0	508(+10)	6.8②	堀 宣行(美浦)	116
9	④	クイーンズウォーク	牝 4	56	川田将雅	ハナ	7-6-6	32.8	542(+6)	25.1⑨	中内田充正(栗東)	112
10	⑥	ブレイティヴェージュ	牝 5	56	戸崎圭太	3/4	13-13-13	32.3	474(-2)	7.7④	宮田敬介(美浦)	111
11	⑩	エコヴァルツ	牡 4	58	三浦皇成	クビ	4-3-3	33.3	494(+8)	89.4⑩	牧浦充徳(栗東)	114
12	①	コスモキュランダ	牡 4	58	津村明秀	アタマ	2-3-3	33.3	520(+18)	117.0⑪	加藤士津八(美浦)	114
13	⑧	ホウオウビスケッツ	牡 5	58	岩田康誠	アタマ	2-2-2	33.5	504(-4)	14.8⑦	奥村 武(美浦)	114
14	④	ソールオリエンズ	牡 5	58	丹内祐次	3/4	7-9-9	32.9	478(+10)	50.3⑫	手塚貴久(美浦)	113

単勝⑦270円(1<sup>kg</sup>) 複勝⑦140円(1<sup>kg</sup>) ⑨240円(4<sup>kg</sup>) ③360円(8<sup>kg</sup>) 枠連⑤-⑥770円(3<sup>kg</sup>)

馬連⑦-⑧910円(2<sup>kg</sup>) ワイド⑦-⑧430円(3<sup>kg</sup>) ③-⑦820円(7<sup>kg</sup>) ③-⑨1,890円(24<sup>kg</sup>)

馬単⑦-⑨1,390円(2<sup>kg</sup>) 3連複③-⑦-⑨5,020円(13<sup>kg</sup>) 3連単⑦-⑨-③15,860円(29<sup>kg</sup>)

5重勝②②①⑩⑦7,132,610円(80票) 対象競走: 東京9R/京都10R/東京10R/京都11R/東京11R



通過タイム: 600<sup>m</sup> 800<sup>m</sup> 1000<sup>m</sup> 上り: 800<sup>m</sup> 600<sup>m</sup>  
37.1 - 49.6 - 1:02.0 44.4 - 32.9

### アラカルト

- ・C.ルメール騎手はイクイノックスで制した23年に続く天皇賞(秋)6勝目。JRA重賞は25年9勝目、通算168勝目
- ・手塚貴久調教師は天皇賞(秋)初勝利。JRA重賞は25年3勝目、通算41勝目
- ・ドゥラメンテ産駒はJRA重賞通算31勝目
- ・3歳馬の勝利は22年イクイノックスに続く通算6回目

# マスカレードボール *Masquerade Ball*

牡 黒鹿毛 2022.3.2生  
 北海道千歳市 社台ファーム生産  
 馬主・宥社台レースホース 美浦・手塚貴久厩舎  
 馬名意味・仮面舞踏会

ヴァインゴールドUSA系 F4-r

ドゥラメンテ 鹿毛 2012	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	アドマイヤグルーヴ 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA エアグルーヴ
マスクオフ 青鹿毛 2009	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	ビハインドザマスク 鹿毛 1996	ホワイトマズルGB ヴァインゴールドUSA

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M3  
 Mr.Prospector S4×M4 Lyphard M5×M5

## INTERVIEW

上水司場長(山元トレーニングセンター・育成)

### まだ進化の途中だと思っています

ダービー後は早々に秋初戦を天皇賞に定めて取り組んでできました。騎乗調教開始まで約2カ月を充電期間として、スタッフ一同、日々焦らず丁寧に扱ってきました。暑い夏をコンディションを落とすことなく過ごせたことが、現在の充実に繋がっていると思います。待望のGⅠタイトルを獲得できて感激しましたが、まだ本馬は進化の途中だと思っています。

J.Fukuda



春の二冠ではミュージアムマイル、クロフデユノールの軍門に下り、頂点のタイトルには手が届かなかった本馬だが、距離適性を考慮して菊花賞はパス。古馬の一線級に挑んだ進路選択を裏らせ、22年のイクイノックス以来となる3歳馬制覇を成し遂げた。春の惜敗を経て本格化、秋の天皇賞で初の戴冠を果たした歩みはイクイノックスにも重なり、いっそうの強豪に挑むジャパンCの走りが注目される。

## 父ドゥラメンテ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首9戦5勝(日本ダービー<sup>GⅠ</sup>、皐月賞<sup>GⅠ</sup>、中山記念<sup>GⅡ</sup>、ドバイシーマクラシック・首<sup>GⅠ</sup>2着、宝塚記念<sup>GⅠ</sup>2着)、最優秀3歳牡馬、17年から供用、21年死亡。23年日本リーディングサイヤー、22年日本2歳リーディングサイヤー

〔代表産駒〕リパティア일랜드(桜花賞<sup>GⅠ</sup>、オークス<sup>GⅠ</sup>、秋華賞<sup>GⅠ</sup>)、タイトルホルダー(菊花賞<sup>GⅠ</sup>、天皇賞(春)<sup>GⅠ</sup>、宝塚記念<sup>GⅠ</sup>)、スターズオンアース(桜花賞<sup>GⅠ</sup>、オークス<sup>GⅠ</sup>)、マスカレードボール(本馬)、エネルジコ(菊花賞<sup>GⅠ</sup>)、ドゥレッツァ(菊花賞<sup>GⅠ</sup>)、ルガル(スプリンターズS<sup>GⅠ</sup>)、シャンパンカラー(NHKマイルC<sup>GⅠ</sup>)、ドゥラエレーデ(ホープフルS<sup>GⅠ</sup>)、ヴァレーデラルナ(JBCレディスクラシック<sup>JⅡ</sup>)、アイコンテラー(JBCレディスクラシック<sup>JⅡ</sup>)、サウンドビバーチェ(阪神牝馬S<sup>GⅡ</sup>)、シュガークン(青葉賞<sup>GⅡ</sup>)、シングザットソング(フィリーズレビュー<sup>GⅡ</sup>)、他に重賞勝ち馬多数

## 母マスクオフ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央5戦1勝

ミヤコノオージ(15 牡父タイキシャトルUSA)中央3戦0勝  
 ルイジアナママ(16 牝父エイシンフラッシュ)中央1戦2勝  
 (17 牡父ルーラーシップ)

トゥーフェイス(18 騊父モーリス)中央22戦4勝(江の島S、箱根特別、オークトバーS・L3着、大阪ハンプルクCOP3着)

スガオノママデ(19 牝父ハービンジャーGB)中央1戦1勝

マスクトディーヴァ(20 牝父ルーラーシップ)中央9戦4勝(ローズS<sup>GⅡ</sup>、阪神牝馬S<sup>GⅡ</sup>、秋華賞<sup>GⅠ</sup>2着、ヴィクトリアマイル<sup>GⅠ</sup>3着)

マスカレードボール 本馬(22 牡父ドゥラメンテ)中央7戦4勝(天皇賞(秋)<sup>GⅠ</sup>、共同通信杯<sup>GⅡ</sup>、アイビーS・L、日本ダービー<sup>GⅠ</sup>2着、皐月賞<sup>GⅠ</sup>3着)獲得総賞金550,610,000円

アナザーフェイス(23 牡父エフィファネア)Ⅷ  
 (24 牝父モーリス)

※14(死産)、21(流産)、25(前年種付せず)

## 祖母ビハインドザマスク

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央10勝(スワンS<sup>GⅡ</sup>、京都牝馬S<sup>GⅡ</sup>、セントウルS<sup>GⅡ</sup>、都大路S<sup>OP</sup>、小倉日経オープン<sup>OP</sup>、北九州短距離S<sup>OP</sup>)、12年死亡、オメガガヴェンデッタ(阪急杯<sup>GⅡ</sup>2着、京王杯スプリングC<sup>GⅡ</sup>3着)、マスクトロロー(師走S<sup>OP</sup>、マーチS<sup>GⅡ</sup>3着)の母、サンライズン(平安S<sup>GⅡ</sup>、名古屋大賞典<sup>JⅡ</sup>Ⅲ、ジャパントダービー<sup>JⅡ</sup>Ⅰ2着、種牡馬)の祖母

## 究極の末脚を繰り出した3歳馬が戴冠

7頭のGⅠウイナーが参戦し、混戦ムードに包まれた秋の天皇賞の主役と目されたのはGⅠ未勝利の3歳馬。皐月賞3着、ダービー2着のマスカレードボールが断然の支持を集め、4月のクイーンエリザベスⅡ世CでGⅠ2勝目を挙げた2023年のダービー馬タスティエーラ、始動戦のセントライト記念を完勝した皐月賞馬ミュージアムマイルがこれに続く勢力図が描かれた。結果は3歳の2頭が1、2着。なかでも「ひと皮むけた強さ」を見せつけたマスカレードボールが、秋の中距離王の座へ駆け上がった。

外枠(8枠13番)を引いた宝塚記念の覇者メイショウタバルが一枚上のダッ

シュで飛び出し、スナナリと主導権を奪取。毎日王冠で2着に逃げ粘ったホウオウビスケッツは2番手に控え、前半1000mの通過は62秒0とかなりのスローペース、凝縮した隊列でレースは進む。タスティエーラは4、5番手につけ、マスカレードボールのC・ルメール騎手は背後の中団を追走。ミュージアムマイルもその直後で仕掛けのタイミングを窺った。

残り800m地点からのラップの内訳が11秒5―10秒9―10秒9―11秒1。瞬発力に加え、その「持続力」も問われたレースは、いち早く仕掛けたタスティエーラが坂の上りで先頭へ。しかしあとひと押しを欠いて失速したところへ、マークするように進んできたマスカレードボールが襲い掛かる。前のライバルを一気に吞み込んでからも、最後までしっかりとした末脚を発揮。ミュージアムマイルの反撃も余裕綽々と抑え、ゴールに飛び込んだ。

春の二冠ではミュージアムマイル、クロフデユノールの軍門に下り、頂点のタイトルには手が届かなかった本馬だが、距離適性を考慮して菊花賞はパス。古馬の一線級に挑んだ進路選択を裏らせ、22年のイクイノックス以来となる3歳馬制覇を成し遂げた。春の惜敗を経て本格化、秋の天皇賞で初の戴冠を果たした歩みはイクイノックスにも重なり、いっそうの強豪に挑むジャパンCの走りが注目される。